

互いの間に愛があるなら

ヨハネの福音書 13 章 31-38 節

はじめに

ヨハネの福音書 13 章は、イエス様が十字架で死なれる前夜の「最後の晩餐」の出来事が書かれています。そこでイエス様は、弟子たちの足を洗い、弟子たちのうちの一人がイエス様を裏切ることを告げます。弟子たちは、誰がイエス様を裏切るのか全く分かりませんでした。しかし、イスカリオテのユダだけは分かったのです。なぜなら、すでにユダは、イエス様を裏切ろうという思いを密かに持っていたからです（ヨハネ 13：2）。

1. イエスが栄光を受ける時

ユダは、自分がイエス様を裏切ることを、イエス様に見透かされていることが分かったと、その場で立ち上がり、外に出て行くのです。ユダが外に出て行った時、イエス様はこう言われました。「**今、人の子は栄光を受け、神も人の子によって栄光をお受けになりました。**」イエス様は、ユダが外に出て行った時、ご自分が栄光を受けたと言われます。それと同時に、父なる神様も、イエス様によって栄光を受けたと言われます。

ユダが外に出て行った時というのは、ユダのうちにサタンが入り、イエス様を裏切ることが確実となった時です。ユダはこの後、イエス様をユダヤ人の宗教指導者たちに売り飛ばし、その結果、イエス様は十字架で殺されることになるのです。つまり、ユダが出て行った時というのは、イエス様が十字架で死なれることが確実となった時なのです。イエス様が十字架で死なれる時、その時こそ、イエス様と父なる神様が栄光を受ける時なのです。十字架の死は、最も惨めで、最も残酷な光景です。裸にされた上、十字に組み合わされた大きな木に、両手・両足を太い釘で打たれて張り付けにされ、長時間、人々の前に晒されて、激しい痛みと苦しみながら息絶えるのです。人々が目を覆い、顔を背けたくなるような光景です。しかしイエス様と父なる神様にとっては、その時こそが栄光を受ける時なのです。なぜなら、この時こそ、私たち人間に救いの道が開かれる時だからです。神のひとり子であるイエス様が、私たち人間の身代わりに、父なる神様の怒りと呪いと刑罰を受け、私たちに罪の赦しと救いの道を開かれる時だからです。父なる神様は、この時のためにこそイエス様をこの世にお遣わしになり、イエス様は、この時のためにこそ、この世にお生まれになったからです。

続いて 32 節で、イエス様はこうも言われます。「**神が、人の子によって栄光をお受けになったのなら、神も、ご自分で人の子に栄光を与えてくださいます。しかも、すぐに与えてくださいます。**」イエス様が十字架で死なれる時、父なる神様は、イエス様によって栄光を受けられます。

す。そしてその後「すぐに」、今度は父なる神様がイエス様に栄光を与られます。十字架の死の「すぐ」後の栄光とは何でしょうか。それはおそらく、イエス様が三日目に死からよみがえる復活のことではないでしょうか。イエス様は、十字架で死なれた三日後、父なる神様の御力によって、死からよみがえり復活されたのです。これこそ、父なる神様が、イエス様に与えられる栄光ではないでしょうか。イエス様の十字架と復活、それはまさに栄光の時なのです。

2. 後にはついて来ます

33 節でイエス様は、これからご自分が十字架で死なれることを暗示して、このように言われます。「子どもたちよ、わたしはもう少しの間あなたがたとともにいます。あなたがたはわたしを捜すことになります。ユダヤ人たちに言ったように、今あなたがたにも言います。わたしが行くところに、あなたがたは来ることができません」。イエス様は弟子たちに、「あなたがたは、わたしの十字架まで、ついて来ることができない」と言われるのです。イエス様は 36 節で、もう少し厳密にこう言われます。「わたしが行くところに、あなたは今ついて来ることができません。しかし後にはついて来ます」。イエス様は、弟子たちに、特に弟子のペテロに、「あなたは、今はわたしの十字架までついて来ることができない、しかし後にはついて来ることができるようになる」と言われるのです。

するとペテロは、こう反論します。「主よ、なぜ今ついて行けないのですか。あなたのためなら、いのちも捨てます」。ペテロは、「わたしは、今でもあなたに十分ついて行けます。いのちを懸けて、あなたについて行きます」と言うのです。しかしイエス様は、再びペテロにこう言われます。「わたしのためにいのちも捨てるのですか。まことに、まことに、あなたに言います。鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言います」。イエス様はペテロに、「あなたは自分のいのちを捨てるのではなく、わたしを捨てることになるのだ、あと数時間も絶たないわずかなうちに、わたしを完全に否定するだろう」と言われるのです。

ペテロは、イエス様に足を洗っていただいた時も、「決して私の足を洗わないでください」と言いました。その時イエス様にこう言われていたのです。「わたしがあなたを洗わなければ、あなたはわたしと関係ないことになります」(ヨハネ 13:8)。イエス様が弟子たちの足を洗うことは、イエス様が十字架で流された血で、弟子たちの罪を洗いきよめることを象徴的に表していました。つまり、イエス様が十字架で死ななければ、ペテロとイエス様は何の関係もないのです。イエス様が十字架で死ななければ、ペテロはイエス様について行くことができないのです。実際ペテロは、イエス様が十字架で死なれる前は、イエス様を三度も知らないかと否定しました。しかしイエス様が十字架で死なれて、三日目に死からよみがえり、天に昇られて、天から聖霊を与えられた時から、ペテロは全くの別人のように変わりました。イエス様のことを、いのちを懸けて証しするようになりました。そして、伝説では、最終的にローマで逆さ十字架に張り付けにされて殉教の死を遂げたと言われます。まさにペテロは、後にはイエス様の十字架について行く人となったのです。

私たちは、自分の力でイエス様に従うことはできません。イエス様の十字架の死を深く見つめた人だけが、イエス様にいのちをかけて従うことができるのです。イエス様の愛を深く受け止めた人だけが、イエス様をより深く愛することができるのです。私たちがイエス様のために何をするかは大切なことです。しかしそれ以上に大切なことは、イエス様は私たちのために何をしてくださったかです。そのことを深く見つめない限り、私たちはイエス様のために何もすることができないのです。

3. 新しい戒め

34 節でイエス様は、これから十字架で死なれ、弟子たちのもとから離れていくにあたって、遺言のような言葉を残されます。「わたしはあなたがたに**新しい戒めを与えます。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい**」。「互いに愛し合うこと」、それがイエス様の弟子たちに対する遺言であり、弟子たちにとっての「新しい戒め」なのです。「人を愛すること」、それは決して新しいことではありません。旧約聖書の律法でも、「**あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい**」(レビ記 19:18)とありました。「互いに愛し合いなさい」という戒めは、どこが「新しい」のでしょうか。それは、「わたしはあなたがたを愛したように」ということです。つまり、イエス様が愛したように人を愛する、これがイエス様の戒めの「新しさ」なのです。

旧約聖書の律法では、自分自身のように人を愛することが求められていました。つまり、自分が自分のことを大切にするように、人のことを大切に、自分のことのように人のことを思う、そのことが求められていました。しかしイエス様はそもそも、ご自分を愛されませんでした。ご自分を大切にもされませんでした。むしろ、ご自分のいのちを犠牲にして人を愛されました。それが、イエス様の愛でした。イエス様は、こう言われました。「**人が自分の友のためにいのちを捨てること、これよりも大きな愛はだれも持っていません**」(ヨハネ 15:13)。人のためにいのちを捨てることこそ、最高の愛のかたちであり、イエス様の愛そのもののなのです。つまり自己犠牲的な愛です。それこそ、イエス様が求める愛であり、その愛で愛し合うことこそ、弟子たちに与えられた「新しい戒め」なのです。

さらに 35 節で、イエス様はこう言われます。「**互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるようになります**」。イエス様の愛で人を愛する人、つまり自己犠牲的な愛で人を愛する人、それこそイエス様の弟子なのです。教会によっては、「弟子訓練」というものが行われます。そこで訓練された人は、聖書をよく読み、よく祈り、礼拝も忠実に守るようになります。そして献金も忠実に献げ、奉仕や伝道にも熱心になります。しかしそういう人が、本当にイエス様の弟子なのでしょうか。イエス様の弟子とは、イエス様の愛で人を愛することができる人、自己犠牲的な愛で人を愛することができる人ではないでしょうか。

この「ヨハネの福音書」を書いたヨハネは、晩年エペソの町で死んだと言われていますが、彼はエペソの教会で最後の最後まで説教をしたようです。高齢になって長い時間説教

ができなくなった時、彼はいつも一言だけ語ったそうです。それは、「子どもたちよ、互いに愛し合いなさい」という一言です。彼はいつもその一言だけを語るので、エペソの教会の信徒が彼にこう質問したそうです。「どうしてあなたは、いつもそればかり言われるのですか」。するとヨハネは、こう答えたそうです。「これが主の戒めであり、これだけ守れば、それで十分だ」。

私たちは、教会の伝道をあれこれと考えます。また家庭での伝道もあれこれ考えます。しかし私たち一人ひとりが、イエス様の愛で人を愛することができれば、自己犠牲的な愛で人を愛することができれば、それで十分なのかもしれません。それさえできれば、人々は私たちがイエス様の弟子であることが分かるのです。そして、この教会には確かにイエス様がいるということが分かるのです。

天におられる私たちの父なる神様。

イエス様の十字架と復活、それこそ栄光の時です。それこそ、私たちの生き方を根本から変える力の源です。どうかイエス様の十字架と復活を深く見つめさせてください。そして、私たちをイエス様の弟子としてください。どこまでもあなたについて行き、あなたが愛された愛で人を愛する者としてください。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。